

豊田市立四郷小学校・
豊田福寿園地域包括支援センター

■ データ（活動）

所在地 豊田市高町東山7番地46

発足 平成24年

■ 講評

2004年厚生労働省の用語検討会によって「認知症」への言い換えが求められるようになったことを契機として、2005年度から始められたのが「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」の構想である。この構想の中で「認知症サポーター」の養成は行われることになり、すでに2013年9月末までに約400万人の認知症サポーターが誕生している。全国各地の自治体を中心に「認知症サポーター」の養成が進められているわけだが、これを豊田市立四郷小学校・豊田福寿園地域包括支援センターでは2012年から小学生を対象にキッズ養成講座として開催している。

中学生が道に迷った地域の認知症高齢者を豊田福寿園に連れてきてくれたことが2度あり、地域には子ども達の目がたくさんあると感じたことがきっかけとなり、四郷小学校と調整を始め、1年生から6年生まで各学年で学習内容を用意している。1年生では「高齢者への敬意（昔の人）の知恵と工夫」と題し、はたき作りを行う。2年生では「身体的変化」と題し、Googleや関節サポーターを使い疑似体験、3年生では「介護が必要なお年寄りって?」と題し、利き手が動かない、指先がうまく動かないこと等を体験する。4年生では「認知症高齢者の心」と題し、紙芝居をもとにグループワーク、5年生では「認知症高齢者の正しい対応」と題し、絵本の読み聞かせとグループワークをもとに「校内徘徊模擬訓練」を行う。6年生では「見守りの必要性&ネットワーク」と題し、寸劇をもとにグループワークを行う。どの学年の内容も分かりやすく、参加型となっており、学びやすい。講座の運営・講義内容の作成等は豊田福寿園職員による手作りで、学校との事前打ち合わせも十分に行なっている。「相手を思いやる心を養いたい」、「高齢者（特に認知症高齢者）に偏見をもたずに育ててほしい」という活動方針が実現されていることは子ども達の感想からも理解できる。「人にやさしい街づくり」は、まず「人づくり」からであることを改めて思い起こさせてくれる活動であり、今後も継続し、さらに各地へと拡大することを大いに期待したい活動である。

（倉田あゆ子）



1年生のはたき作り